友愛の旅に参加して

新田　進

茨身協で今年六月北陸の旅を関鉄観光バスツアーで巡ると云う。北陸といえば加賀は兼六公園・福井の曹洞宗大本山永平寺詣でが出来る。永平寺の開祖「正法眼蔵」を著した道元禅師の曰く、「春は花夏ほととぎす秋は月、冬雪さえてすずしかりけり」と喝破。30年ほど前現役の頃金沢出張の折寄ったそのイメージを確かめたかったのだ。

永平寺は益々良くなった感じでした。何層何階の七堂伽藍には裏側に車椅子の行き交う廊下とエレベーターがあり、しかも修業中の学僧雲水が車押し、段差があればエイ！ヤ！いや静に力を込めて、苔生す老杉、桧に囲まれた山門から最後の挨拶後迄・・唯々驚きでした。七堂伽藍とは今から750年前出家参禅の道場で33万㎡に及ぶ広大な敷地には山門・仏殿・法堂・僧堂・大庫院(台所)・浴室・東司(手洗い)等々修行の総称で70余棟が樹齢600年を越える老杉の巨木に囲まれながら静にたたずみ偉観を誇っています。

病後の平成七年六月「霊峰高野山詣で・白浜南紀巡り」で弘法大師御廟と「貧者の一灯長者の万灯」で有名な灯竜堂までの石畳参道2ｷﾛをどうにか走破したのを想い出した。往復は雲海の旅。

（7・7・15・第9号）

さて、北陸路の旅館ホテルのバリアフリー度は？！これが全くの期待はずれ。芦原・山代両温泉の代表的な旅館に泊まったが。廊下は勿論風呂場にも手すりが無く風呂桶・椅子も低くお年寄りも立ち上がりに一苦労。ましてや障害者は言うも無残！？一体北陸は関西中京地区の遊び場・湯治場と言われながらこのザマ！？残念無念。

永平寺
見事な筆の御朱印

さてさて。この「友愛の旅」に参加してもうひとつ大きな出会いがありました。

21年前、53才で脳溢血で倒れ、筑波メディカル病院へ運ばれ一ヶ月して症状の固定化と共に守谷のリハビリ記念病院へ転医させられました。そこで約一年お世話になりましたがその際お二人の先生の背中を見て人間かくありたいと深く感じたことがあります。そのお一人が保健師S先生。その先生から突然のお手紙を頂き片マヒながら片手で「琵琶」製作に励んでおられる方を紹介したいとのご連絡。聞けば「18年度吉川英治文化賞」を授与された方だそうだ。

偶々その方らしき人が猿島郡五霞町でツアーバスに乗ってこられたのである。まったくの奇遇である。私は予ねてS先生から紹介資料を頂き読んでいたので乗車名簿にその氏名を見、今「田村皓司」さんと一緒に旅する機会に恵まれた出会いを感謝した。二泊目に同室となりお互い下戸ながら深夜まで談笑。因みにS先生も数年前の同賞受賞者であります。

パソコン勉強会

平成17年から茎身協ふれあいサロン活動の一環として始まった「パソコン勉強会」は二回目の夏を迎えました。月2回（第1・第2木曜）木嶋と木村さんがサポーターとして進めております。

今年の夏は異常な猛暑が続き、ふれあいプラザに通うのも大変だったことと思います。

成島政次さんは、電動車椅子で汗びっしょり。暑い日は麦藁帽子をかぶり、雨天時は合羽を着て、テキストをしっかり持っていらっしゃいます。プラザの入り口で普通の車椅子に乗り換え、パソコン室にみえます。

今年度から勉強を始められた相沢明さん・次子さんご夫妻も仲良く勉強に参加されています。少し照れくさいのか、座席は離れて座っています。聴覚障害のため、こちらの言葉がよく通じないというハンディはありますが、手書きメモやスクリーンを見ながらも良く理解され、素晴らしい作品を仕上げてくださいます。手話通訳の環境を整えなければと実感しています。

また車の送迎につきましても、宮谷武志さん・宮田陽子さん・竹原勇さん・木村勇さんに協力していただいております。大変感謝しています。新田会長は谷田部にお住まいの初沢さん・塚田さんの送迎を受け持っています。

このようにパソコン勉強会のみならず、会の行事には、善意による車の送迎が避けられないものとなっております。とても有難いことと感謝申し上げます。

現在学習の中心はワードですが、時々寄り道をしながら、興味の向くまま作成しています。最近では「海の集い」おさそいプリントや、残暑見舞いハガキ・カレンダーなどを作りました。

いつの日かこのゆうあいも是非皆さんと一緒に作って行きたいものだと思います。（木嶋記）